

富山国際大学・富山市 産学官連携「地育地活」プロジェクト

育成機関 × 地域 × 福祉 による 人財発掘・育成

富山国際大学 子ども育成学部

立山 あおく 特等席。富山市



「令和8年度 福祉人材の育成・確保に向けた地域内連携事業」

富山国際大学は、富山市との連携のもと、地域に入り込みながら、福祉人財の発掘・育成に主体的に取り組んでいます。

本事業は、大学が中学校・高校へ出向いて授業を行い、福祉への興味・関心を高め、将来の福祉人財を育成する「育成機関」の柱と、地域内に法人間の連携プラットフォームを構築し、関係団体と連携しながら福祉人財の発掘・確保に取り組む「地域」の柱の、2つの柱で進めています。

Project Yは、この「地域」の柱の一環として生まれた8つの福祉団体によるプラットフォームです。

福祉ニーズの高まり

富山市八尾地域は全国平均を上回る高齢化率で、高齢による福祉ニーズは年々高まっています。また、福祉ニーズは複雑化・複合化しています。

日本の高齢化率（「令和8年版高齢社会白書」）

29.4%

富山市の高齢化率（令和8年7月末現在）

30.5%

八尾地域の高齢化率（令和8年3月末現在）

38.3%

福祉人財の不足

福祉ニーズが高まりを見せる一方、福祉分野で働く就業者数は減少しています。

また、複雑化・複合化した福祉ニーズに対応するためには、より高度な福祉人財の確保が必要です。

地域で福祉を支える担い手を確保するためには、福祉人財の発掘・育成による就業者数の増加と、現在働いている人財の負担を軽減し離職を防止することが重要だと考え、「育成機関」と「地域」の2本柱で取り組んでいます。

本事業の目的

人財の発掘・育成

若い世代に福祉分野を職業選択の1つとして考えてもらい、福祉人財養成機関への進学、福祉業界への就職まで長期的な人財育成を図ること

人財の確保

地域住民との交流を通して、福祉への理解を図り、福祉人財の発掘・育成を行うことで福祉専門職の負担を軽減し離職を防止すること

2本の柱

1 若年層（中高生）へのアプローチ

中学校・高校での出張講座
ワークショップ等の開催

福祉人財養成機関への進学促進

福祉分野への就職へとつなげる

2 法人間連携プラットフォーム

法人間で連携するための基盤づくり
と人財確保・定着のための取り組み

地域住民の福祉に対する理解促進と
福祉人財として活躍できる場づくり

現スタッフの負担軽減・離職防止



「育成機関」の柱では、県内で唯一普通科「福祉コース」を設ける八尾高校の2(🍷)年生を中心に、2(🍷)年間にわたってワークショップや授業を定期的に行っています。

例えば、「変な地域」と題したワークショップ。八尾地域を想定し、地図や住民の情報から“困りごと”を読み解きながら、地域のよいところ（強み）も見つけて、住民の思いや考えを「聴き出す・引き出す」中から解決策を導き出していくアプローチを取り入れています。福祉に意欲的に取り組んでもらいたいと富山国際大学村上研究室の学生らがオリジナルの教材を考案し、製作しており、このことも授業の魅力となっています。



さらには、「育成機関」への切れ目ない支援として、八尾中学校の生徒も対象にしています。例えば、1年生全員による福祉施設での体験授業はじめ福祉を学ぶ富山国際大学子ども育成学部の学生との交流、いつでも福祉施設でボランティア活動を行えるようにと生徒たちが自発的に立ち上げた「地域協働サークル」の活動支援等を随時行ってきました。

このように、自分の住む地域に目を向けること、身近な誰かの困りごとに寄り添うこと、相手の良いところにも気づこうとすること、等の姿勢を日頃の営みの中から、自然に考えられるやさしさ（優しさ・易しさ）づくりを意識し、育成につなげています。



「地域」の柱では、八尾地域内の8つの福祉施設を中心に「Project Y」を立ち上げ、福祉に関わる施設に留まらず、富山市八尾山田商工会をはじめ様々な関係団体と連携しながら、地域全体で福祉人財の発掘・育成に取り組んでいます。

昨年度は「フクシのまちづくりフォーラムinやつお」を開催し、地域に福祉の文化を醸成することにも挑戦しました。

今後は、フクシップミニのぼりをProject Yの各施設で分担して作成し、商工会に加入しているお店などに随時配布し、フクシップを広げる活動も行う予定です。



課題解決のための目標

課題解決に向けた目標として、Project Yを中心に、80団体・800人の福祉人財（福祉分野で働く人、ボランティア、福祉活動を応援する人など）を発掘することを掲げています。

「“FUKUSHIPPERS”＝フクシップを大切にしながら福祉に関わる仲間たち」として、地域に輪を広げながら地域課題の解決に向けて取り組んでいきます。

